

はじめに

副委員長 榎本 佳子

今年の夏も暑いですよ。え。(ビールは美味しいけど) 女性委員のみなさんは元気にお過ごしでしょうか? このところブロック会議で津に出かけ、全建女で台風一過の東京に出かけ、プライベート旅行で遠出してかけずり回っていました。台風と言えば、私の住む大垣では大きな被害を受け、ご心配をおかけしました。うちはなにも被害はなかったのですが、友人宅が床上1mまで浸水しました。家財保険には入っておいた方がいいですよ。人生何が起こるか分からない! 話は元に戻りますが、全建女では、この業界のいろいろな仕事に携わっている女性たちのおもしろい話が聞けてよかったですよ。全国にはいろんな人がいるんですよ。次は全国大会があるので大勢で参加しましょう。

今回の記事

- 今後の予定・お知らせ
- メーリングリスト
- 会員プロフィール紹介
- 建築士会東海・北陸ブロック会の報告
- 平成14年全国女性建築士連絡協議会の報告
- 建築士会理事会報告抜粋
- 研修会報告
 - ◆ ガラスの研修会のこと
 - ◆ ぎふ木造塾のこと
- 建築ひとくちメモ
 - ◆ 板倉づくりとは
- ハウスアダプテーション
- 雑談
 - ◆ ほっとするひと時
- 女性委員会からのお願い
- 編集後記

添付資料(ラストページに掲載)

- ◆ 平成14年全国女性建築士連絡協議会アピール

■ 今後の予定・お知らせ

◆ 建築士会全国大会

日時: 10月17~18日(金~土)

場所: 三重県伊勢市

(女性委員は7名参加予定)

◆ 第23回建築文化講演会

講師: 北河原 温氏

(美濃市の森林文化アカデミーを設計した人です)

日時: 9月21日(土) 14時

場所: 未来会館(岐阜)ハイビジョンホール

※青年・女性委員会で担当します。当日、お手伝いできる方はよろしくお願ひします

■ メーリングリスト

メーリングリスト(ML)を活用することにより随時双方向の情報交換ができます。1人でも多くの方にご参加いただければと思います。メールのことがよくわからない方は濱本さんがわかる範囲内ならアドバイスOKとのことです。現在約2人に1人の方が参加しています(30名)。最近では委員長からのお知らせという一方通行が多くなっていますが、皆さんも身近な話題など軽いノリでメール発信してください(〇〇)。

女性委員会 ML のほかに建築士会の ML もあります。女性委員会では建築士会の ML に参加していることを前提に ML を運営しています。現在参加者が172人で約1割の参加という状況です。

濱本さん連絡先 TEL 0584-64-6208

kaoru@mx1.freemail.ne.jp



メーリングリスト(ML)参加申込はこちらへ

住所、氏名、アドレス記入の上、担当: 榎本さんまで
yandm.masumoto@nifty.ne.jp
 TEL 0584-82-8667

前回お願いしました「個人カード-プロフィール」です。1月ころ開催予定の「女性建築士の集い」の時に顔とお名前の合点がいくといいですね。なお、カードが未提出の方は10月25日までに提出していただけますようお願いいたします。



名前 つがわ ふみえ 津川 文江	生年月日
	血液型
	建築士会に入ってから年数: 今年度より
・好きな食べ物 和食	
・好きな映画・音楽・本など 音楽: 葉加瀬太郎「冷静と情熱のあいだ」 映画: 「ホディーガード」 雑誌「メイプル」	
・趣味・特技など 趣味: パッチワーク 特技: 茶道 華道 アレンジフラワー	
・好きな言葉	
自由欄 家族は5人と3匹!(現在は2人と3匹)主人と私。長男は名古屋の設計事務所勤務23歳。長女はオーストラリア留学「代替医療」を勉強中21歳。次男は愛知工業大学建築科2年在学中19歳です。それと大事なミニチュアピンシェル7才のロン。大けがを体験した足の悪い1才11ヶ月のパーニースマウンテントックのベルン。保健所を転々として最後に我が家に来た身体は大きい弱虫のグレートピレニーズ1才のブー。仲良く暮らしています。そして最近更年期に突入し始め感情不安定で〜す。よろしくお願ひします。	



名前 たかの えいこ 高野 栄子	生年月日:
	血液型:
	建築士会に入ってから年数: 約 10 年
・好きな食べ物 ラーメン	
・好きな映画・音楽・本など	
・趣味・特技など 趣味: 旅行 お金とひまさえあればどこへでも行きたいです。	
・好きな言葉 なんとかなるじゃない。	
自由欄 育児をしながらの自営業なのでなかなか大変です。うちの子は寝ぐずり、夜泣きに寝起きも悪く、毎日悪戦苦闘中です。早く大きくなってほしいものです。	

■ 建築士会東海・北陸ブロック会議の報告

◆平成14年度女性建築士協議会 定例会議

(前期三重会議)の報告

日時 : H14.6.22

場所 : 三重県津市「アストプラザ」

(岐阜県からは3名出席。全体では29名の参加うち、三重県11名参加)

ブロック事業委員会:

平成15年度のブロック事業発表は石川県の予定。平成16年度は岐阜県の順番

定例会議:

・各県の今年度事業計画

愛知県 現在女性部会の会員280名、役員30人強。「わたらしい住まいづくり」は今年で12回目となる。愛知の建築(毎月発行)の2ページ分を担当。ホームページの維持・運営。他に交流会など計画。

三重県 全国大会を目前に控え、今年度の活動はとにかく全国大会を成功させるということで計画。年明けには新人歓迎会を予定

岐阜県 女性委員会メーリングリストの活用。2ヶ月に1度を目安に、委員会運営会議を開催(全会員にオープン)。女性委員会だより「らくだ」を3ヶ月ごとに発行。今年度よりぎふ木造塾がスタートし、青年と女性で運営担当。

富山県 13支部を6ブロックに分け、1年を3ブロックで分担という担当制を進める予定。健康住宅及び民家の各研究会も継続事業として計画

石川県 体験型の勉強会を計画し、より参加しやすいものとした。今年度もバリアフリー・ゼロエミッション・親睦を3本柱として活動予定。

福井県 部会存続の危機を何とか乗り越え、青年と一緒に活動(7支部に分かれている支部単位)していく。ブロック発表に向けた勉強会(テーマ児童館)を継続。

・連合会女性委員会の報告

(前運営委員長=富山県・小見さんの報告)

全国女性建築士連絡協議会及び全国大会フォーラムの報告。連合会女性委員は9月より新委員でスタートするので、今後は愛知の小野さん(運営委員長)が担当

・その他

愛知県が東海北陸ブロック女性建築士協議会代表として全国大会の屋台村ブースに出展。パネル作成費の一部を会より補助

・青年協議会地域実践活動発表会

岐阜県青年委員会発表の「ぼくたち、わたしたちの夢のおうち」は、惜しくもテーマが酷似した愛知県に押されて次点でした。より地域に密着した活動という点では評価されていたのに残念でした。



新運営委員長の愛知の小野さん



メロン大好き!! 榎本で〜す



果物・ケーキを取り巻く各県女性委員の熱心な後姿



河内女性委員長(左)と愛知女性部会長の山本さん

■平成14年度全国女性建築士協議会の報告

(報告者:河内、榎本、松村)

◆日時: H14.7.12(金) 13:30~13(土) 12:30

場所: 女性と仕事の未来館ホール及び建築会館(東京)

出席者: 317名(女性の大集団! さすがに圧巻!)

◆連合会会長 宮本忠長氏の挨拶の後、今回初めて共催という形をとった「女性と仕事の未来館」館長の樋口恵子氏、連合会女性委員長の小谷部育子氏の挨拶と続き始まった。今回は共催ということと、会場のスペース(250名定員)の問題もあり、モニタールームが準備された。

第1部 活動報告

「地域を動かす女性建築士の活動」

各地でさまざまな活動をしている女性委員会の報告がありました。

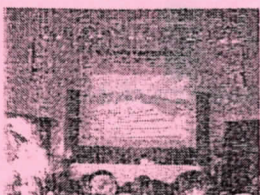
1. 子供の居場所はどこにあるのか(神奈川士会)
2. 「祇園祭トイレ」ボランティア(京都市会)
3. シックハウス症候群の実態調査とその報告(大阪士会)
4. ユニバーサルデザインとバリアフリーデザインに基づく施設改修の実践(岡山士会)
5. 若松バンド~近代建築の保存と活用のまちづくり(福岡士会)

女性委員会の活動が他の団体を巻き込み、地域を巻き込んでネットワークができ、成果をあげる。女性のパワーはすごい!と感心しました。

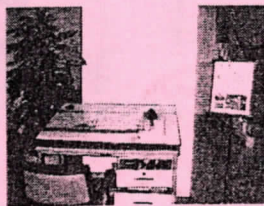
第2部 パネルディスカッション

「さまざまな分野で活躍する建築を担う女性たち」

コーディネーターは初代女性委員長の村上美奈子氏(設計事務所主宰)、パネリストは直前女性委員長(設計事務所主宰)の鍵野洋子氏ほか行政職公務員、ジャーナリスト(建築雑誌編集者)、茅葺き職人、工務店経営者とまさにテーマのとおりの人材でかつ既婚者・未婚者そして両親の面倒を見ている人また、それに失敗した人と、建築の中でもさまざまな分野からのパネリストの本音が聞けたディスカッションで、それぞれの仕事と家庭、家族とのかわり方についてとても共感が持てる話が聞けました。



パネルディスカッション風景



女性と建築展

◆委員長会議

土曜に開催された委員長会議(北海道から沖縄まで静岡以外全員参加)は例年のように早朝 8時から50分間のあわただしい会議でした。

□委員長会議の報告事項

1. CPD(継続的能力開発制度)、専攻建築士制度について(建築士 H13.12月号参照のこと)
2. 三重大会コラボレーションフォーラムについて
3. 連合会女性委員交代について(東海北陸代表は富山の小見さんから愛知の小野さんへ交代)

□委員長会議の協議事項

1. 本協議会アピールについて(同封します)
2. 平成15年度全建女について(7.11~12神戸市)

◆分科会報告

・ A分科会「健康住宅関連」...

全体会で発表された「シックハウス症候群の実態調査とその報告」の補足説明として大阪建築士会から調査後のシックハウス関連セミナーの報告があった。

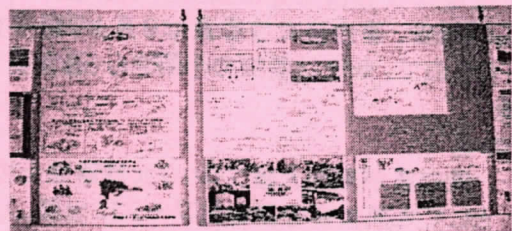
埼玉建築士会からは、冊子「健康素材」が配布され日々新しい素材が出てくる中での資料整理、一冊にまとめる苦労などの話があった。

また、宮城建築士会からは冊子「からだにやさしいえ」が配布された。

その後、活発な意見交換がなされ、設計ではどのような工法、手法を取り入れているのかなどの具体的な意見も聞かれた。材料(木)と向き合っている間に自分達で壁装材を開発した方、塗料を自分で塗りながら良い材料はないかと次々と試している方。興味深い話題となる。

健康材料=高いというイメージがあるなか、流通経路を模索したり、情報交換を行ったりして最新の情報を入手し、イメージを払拭する努力もなされている。健康でない建物、問題のある建物を

「つくるのも、なくすのも建築士」ではないかという事が参加者の共通意見として出された。

『仕事と家庭を両立させるための新しいすまい・まちとは』
—全国の女性建築士からの提案—

■平成14年度全国女性建築士協議会報告(続き)

・B分科会「環境共生関連」・・・

大阪士会が大阪市からの依頼により、住まいの情報センターで行っている市民向けセミナーの報告(セミナーは実際に活動できる人も少なく、大変だけど、建築士の役割を知ってもらう為にも行っている。セミナーの後の住宅相談はシックハウスなどだと行列が出来るほど)と意見交換。主な意見:日本の伝統建築は環境に配慮されたものだった。地域ごとに環境共生の仕方は違う。健康な住まいは素材・建て方だけではなく、住まい方の提案も合わせて行うことが大切。自然素材の家は手がかかるという説明も大切。学校教育(家庭科)の中でもっと住生活に関わる内容を多くすることが大切だが教える人がいないのが現状。アメリカやフィンランドなど住環境をしっかりと授業の中で教えている国もあるなど。

・C分科会「建築士制度と士会活動」・・・

大阪と東京で試験的にスタートした。社会に認知してもらうことが大切だが、認識について建築士会間にレベル差がある現状。

・D分科会「高齢社会関連」・・・

介護保険と住宅改造の問題。群馬・山口からリフォームアドバイザー制度の報告。行政とのタイアップが大切である。介護(保険)絡みの住宅改造には多業種が関わるため、チームワーク作りが不可欠だが、工事監理やフォローが難しい。民間レベルのチーム作りをスタートさせたところもある。

・E分科会「法制度関連」・・・

住民参加のまちづくりが可能になった。住民と行政との橋渡しは建築士の役割。ハートビル法が拡大されたが運用する人に意識がないと機能しない。

・F分科会「歴史的建造物の保存と開発」・・・宮城では文化庁が文化財調査の依頼をしてきたことにより、町の大切なものに気づくことが出来、報告書等を通じて活動が評価された。寄付の集め方のノウハウも大切である。士会の中でのネットワーク化が大事であり、様々な分野の人に関わってもらう必要がある。次世代へ歴史的資産を渡す義務がある。まわりの人は近すぎて気づかないこともある。

・G分科会「子供・住環境・まちづくり」・・・

持続可能な社会のためには子供たちが元気でなければならぬ。体験学習も大切。福島・北海道など様々な地域で子供を巻き込んだプロジェクトが行われている。

・H分科会「集まって住む」・・・

まず、千葉建築士会からコレクティブハウスの講習会を開催していると報告がありました。

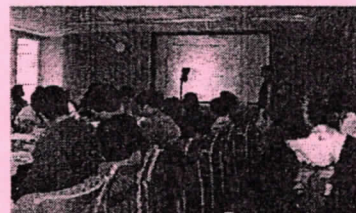
そして、東京の宮前真理子さんから「コレクティブハウスかんかん森」について報告がありました。宮前さんたちは「コレクティブハウス」というNPO法人を立ち上げられ、この「かんかん森」のコーディネートを手掛けられました。(ちなみに理事長はコレクティブハウスの第一人者で連合会女性委員長でもある小谷部育子さん)この「コレクティブハウスかんかん森」は、民間で賃貸という形式。事業主体は株式会社生活科学運営という有料老人ホームの建設・運営をしている会社です。中学校の跡地を買い取り、12階建てで2階3階が賃貸のコレクティブハウス(28戸)、4階からは老人ホーム(シニアハウス46室、ライフハウス42室)になっています。コレクティブハウスを民間で賃貸という形式はセキスイのハートフルハウスという事例があるが70戸くらいないと採算がとれないそうです。今回は老人ホームが主体となっているから28戸でもなんとか採算がとれるのだそうです。

分科会の参加者からは、コレクティブハウスで賃貸という形は東京だからできるのであって地方では無理があるという意見がでました。東京の場合は家賃を抑える為に居室面積を少なくしたが、神戸の場合は床面積を増やさないと入居者が集まらない。沖縄ではコレクティブハウスはないが、昔からそういう形態で暮らしている。など、いろいろな意見が聞けました。やはり住宅というのは地域性が出るものでそれぞれの地域に合ったコレクティブハウスを作る必要があると実感しました。

第3部 分科会報告(上記)と総評

「さまざまな課題への女性建築士たちのメッセージ」

福祉・健康・環境・集まって住む…年数を重ねるごとに地域での活動も活発になって、建築士としての義務・責任も明確化されるようになってきた。建築士だけでは解決できない問題も沢山ある。実践活動が増え、全国的にも注目される事例がこの場で報告されることにより、各地域でも活発化とまでは行かなくてもみんなが地域に持ち帰ることにより、活動が広がっていく。



H分科会「集まって住む」

■建築士会理事会報告抜粋

◆第1回理事会 H14.6.21

1. 会員増強について…特別委員会結成
2. 第45回建築士全国大会(三重大会について)
3. 特別会員(楸ぎふ建築住宅センター)の入会承認
4. 委員会報告
建築士の日 6/28～7/4JR 岐阜駅プラザにてパネル展と建築相談会

◆第2回理事会 H14.8.5

1. 建築士会の定款細則の改正案について
2. 三重大会の参加申し込み状況について
岐阜支部:48人、西濃支部:41人、各務原支部:16人、中濃支部:20人、可茂支部:25人、東濃支部:25人、中津川支部:19人、飛騨支部:30人、高原支部:3人
支部小計:227人 各委員会小計26人(まちづくり:6人、企画情報:5人、青年:10人、女性:5人)

参加助成金について、飛騨・高原支部の参加者 ¥18,000・左記以外支部の参加者 ¥10,000

3. 委員会報告

- ・建築ニュースぎふ9/10発行予定
- ・ホームページアクセス数 11,010
- ・岐阜県震災建物応急危険度判定士 12月更新予定、新規はH15.2開催予定
- ・住宅性能保証登録業者が減少、11月下旬に講習会開催予定

5. その他

- ・宅地開発指導要領(H14)販売
- ・東濃学園都市 21世紀型ニューシティ プロポーザルコンペティション <http://www.gifutono.com>
- ・第34回中部建築賞募集
中部建築賞協議会 052-262-0838

(建築士会メーリングリストでも理事会報告が載せられています。担当…企画情報委員会)

■研修会報告

◆ガラスの研修会のこと

6月7日、岐南町の株式会社アクティブハヤシにおけるガラスに関する研修会に参加した。楽しみにしていた工場見学が実現されなかったことは、非常に残念で心残りだったが、ガラスを通しての防犯についての考察や、省エネへの挑戦など、大変に興味深い話を聞いた。また光触媒という高度な技術説明では、専門的な内容まで紹介され、大いに好奇心をくすぐられ、建築に携る者としての自覚を改めて呼び覚まされたような気持ちになった。今後も、こうした研修会にはできる限り参加していきたい。

船渡はるみ

◆「今、木のことを考えよう」

住まいはやはり木の家がいい。日本の風土や気候に合っているしこれは日本の文化なんだと常々思い、縁あって私の事務所に足を運んでくださるクライアントの方には、いつもそう話をしていた。

今回、岐阜木造塾の開講に当り、もっと木のことや山のことを知りたいと思っていたので、とても楽しみにしていた。第1回目は、熊崎実先生の「日本の森林と林業」について話をいただいた。日本には、豊かな人工林がありながら、それを使用せずに外材が流通し日本の木材生産が減っていて、森林所有者が管理・経営できなくなっている現状は、深刻に受け止めなければいけない。日本の森林について認識を新たにして、木を無駄なくきちんと利用していかなければ、日本の森林はだめになってしまうと強く感じた。何かしなければ…。第2回目は、今建築界で話題の三澤康彦・三澤文子両氏によるMs建築設計事務所の新しい形の木造住宅の話聞いた。Ms建築設計事務所といえば、Jパネル・Dホルトを使用して国内産の材料で、短期間で質の高い住宅を設計されている事務所である。両氏の現在のシステムを作られるまでの並々ならぬ努力と研究心には敬服しきり、私ももっと勉強しなければと思った。

ハウスメーカーの住宅が乱立している昨今、木のこと・森林のこと・木造住宅のことを再認識して快適な住まいの提案をしていければと思う。もっともそれ以前に皆さんに設計事務所の存在をわかっていたいただくことから始めなければ……。

宇佐美 泉

セキュリティガラスの割れにくさの実演



ガラス研修会風景



木造塾交流会風景

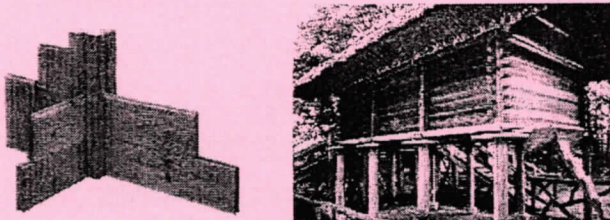
木造塾交流会記念写真



■建築ひとくちメモ

◆板倉造りって何？

静岡市登呂遺跡に復元された板倉造りの穀物庫



杉板厚さ30mm、幅150mmの無垢板に本実(ほんざね)加工を施し、柱の溝に落とし込む工法で、地震、風圧に対しても強い工法です。名古屋大学農学部の耐力実験により剛性や粘りの面で高い評価を得ています。昔の倉はなぜ木造なのか？それは伊勢神宮や正倉院の校倉(あぜくら)や登呂遺跡に復元された板倉を見れば理解され納得できます。木材の持つ断熱性と調湿性が、倉の優れた収蔵機構をつくりあげたからだと言われています。『(有)栗田建築設計事務所 HP 抜粋』

※皆さんも(ちょっと)紹介したい建材料や工法・建物など建築に関する情報がありましたら気軽にお寄せください。

■ハウスアダプティション

◆「ケースカンファレンス」について

医療面や生活面から全人的なケアを行う在宅ケアは数多くの職種の人達が援助の目標を決めたり、ケアプランを作成したり、実行したりする場合、チームを組み支援の体制を作ることが大切です。個々の事例を用いて(case)適切な援助を行う為、カンファレンス(conference)協議会を行うことである。

／在宅介護を考える ハウスアダプティション用語集抜粋
財団法人住宅総合研究財団



「ハウスアダプティション通信」が(財)住宅総合研究財団ホームページからもダウンロードできます。

URL:

<http://www.jusoken.or.jp/koreisha.htm>

■雑談

◆ほっ、とするひととき

なかなか、ほっとするひとときが思いつきませんねえ、先日河原でバーベQをしました、大勢だといついで働きすぎてへトヘトでした。(泣)次の日少人数で残りの食材でのんびりダラダラと過ごしました。やはり気のおけない人とのんびり外で過ごす時間が良いですね。飲酒運転と紫外線には気が休めないのですが…。(T)



■女性委員会からのお願い

もうそろそろ、第2回「女性建築士の集い」の段取りをし始めなくっちゃというわけで、みなさんの受けた研修などのアンケートを取ります。

- ・時期について:昨年度は1月でした。12月とどちらがよろしいですか？
 - ・研修について:昨年度は「色の話」でした。何かご希望はありますか？
 - ・場所と時間:昨年度は岐阜市内で土曜日の午後から夕方でした。ご希望の場所、時間帯はありますか？
- ※ご意見・ご希望ありましたら、事務局までお寄せください。また、会の準備をお手伝いいただける方は歓迎ですのでよろしく！

■編集後記

3ヶ月に一度がこんなに早くやってきてしまうとは…月日の流れを速く感じるというのはかなりヤバイ現象ですか？(^_^;)今回は報告事項という硬い内容が多くなりましたが、少しでも全国の活動を皆さんにお伝えしたいという思いからです。もっと詳しい内容を知りたい方は運営会議を2ヶ月に一度程度開いていますから是非ご参加ください(MLでは運営会議開催案内・報告をその都度流しています。事務局でもわかります)。

より充実した内容となるよう、皆さんからの投稿をお待ちしております。(商品紹介もよろしく)

なお、編集参加問い合わせ、ご意見・投稿・新企画などがございましたら、下記へお寄せください。

(社)岐阜県建築士会

岐阜市司町1番地 岐阜総合庁舎3階

TEL 058-266-5786

FAX 058-266-6867

<http://homepage2.nifty.com/aba-gifu/>

kensi578@juno.ocn.ne.jp

※ 女性委員会担当まで宜しくお願い致します。

平成14年全国女性建築士連絡協議会 アピール

全国女性建築士連絡協議会では、これまで、高齢社会問題や健康住宅問題など居住環境をめぐる社会的課題をテーマとして取り上げ、生活者と専門家の双方の立場からの視点での問題指摘と、地域での実践活動を基に様々な提案や提言を行ってきました。こうした活動は、関連法や諸施策の整備に影響を与えています。

本年度の全国女性建築士連絡協議会は、『地域と共生する住環境づくり～さまざまな職域・地域で活躍する建築を担う女性たち～』をテーマとして、(財)女性労働協会の「女性と仕事の未来館」との共催により、全体会を一般公開といたしました。内容は、各地域での女性建築士たちの活動と、建築のさまざまな分野での女性たちの活躍の紹介、そして、「女性と仕事の未来館」で開催中の『女性と建築展』への、全国の女性建築士たちからの『仕事と家庭の両立を支援する新しいすまい・まち』の提案を踏まえ、300名を越える女性建築士が一堂に会し、多岐にわたるテーマで住環境づくりについての議論を深めました。本年度の分科会は「健康住宅」「環境共生」「建築士制度と士会活動」「高齢社会」「建築関連法制度」「歴史的建造物の保存と開発」「子ども・住環境・まちづくり」「集まって住む」の8テーマで開催しました。

その成果として、以下の点を、今年のアピールとして発表いたします。

1. 私たちは、今回の一般に公開された協議会の開催を通じて、女性建築士が、地域と共生する住まいづくり・まちづくりの担い手であり、その役割が大きいことを再確認した。
2. 地域に密着した女性建築士ならではの問題発見と、地域団体・企業・行政をも含んだまちづくり・地域づくりの諸活動のさらなる展開によって諸問題の解決をすすめる。
3. 仕事と家庭の両立という生活者すべての課題解決の鍵は、共生の理念に基づいた地域やコミュニティの再構築であり、私たちは、専門性を生かし、誰もが暮らしやすい社会づくりを目指す。
4. こうした活動の実践にあたっては、今後、異業種の専門家たちとの連携や協働を図り、その成果に対して、広く一般の理解を求める。